多賀地区南工区の埋立工事

本工事は、令和３年７月の伊豆山地区の災害で堆積した土砂を埋立材料として有効利用することにより、南工区の埋立を行うものです。今回、土砂の埋立は令和４年２月から６月までの施工を想定していましたが、土砂が流出しないようにするための対策と、その施工にも時間を要することから、令和４年３月に施工を開始し令和５年２月に完了する見込みとなりました。

工事中は、資材や土砂を運搬する車両が現場周辺を往来しますが、騒音や粉塵等ができる限り発生しないよう注意して作業を実施しますので、皆様の御理解、御協力をお願いいたします。

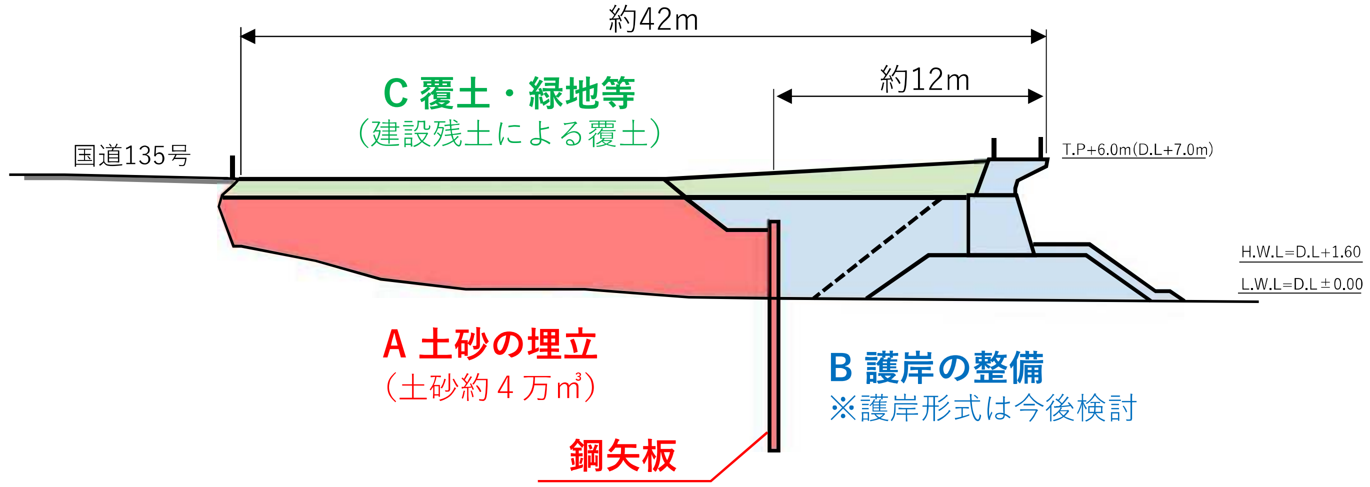
今後、津波対策として護岸の整備も行っていきますので、あわせて御理解、御協力をお願いいたします。

埋立工事の概要

施工箇所　熱海市下多賀（長浜海浜公園南側）
施工内容　鋼矢板設置　延長約300m
　　　　　土砂の埋立　土量約4万㎥　面積約1万㎡（埋め立てる高さは国道135号と同程度）

災害復旧による埋立範囲　　津波防護ライン（護岸）

横断面図（イメージ）



今後のスケジュール

位置	工　事　内　容		施工時期	備考
A	土砂の埋立	土留の鋼矢板を設置し、堆積土砂を埋め立て（土砂流出防止対策、防塵対策を行いながら施工）	R4.3月～R5.2月	今回施工
B	護岸の整備	津波対策として護岸を整備（T.P.+6.0m）	R4.5月～R7見込み	
C	覆土・緑地等	埋立土の表面処理（土砂の埋め立てに併せて施工）	R4.10月～予定	

皆様から寄せられたご質問やご意見

Q1　堆積土砂にはガレキが混じっているのではないか。ふっ素も入っていると聞いているが問題はないか？

A1　ガレキを分別して土砂を埋め立てることにしています。また、堆積土砂から検出されたふっ素の値は海に埋め立てる基準に適合していますので問題ありません。土砂を搬出する際に改めて調査を実施し基準値内であることを確認します。

Q2　長浜海岸の埋立は地元として以前から要望している。伊豆山の復旧のため工事には賛成するが、その前面に整備する津波対策の護岸も早く完成させてほしい。

A2　現在、設計を進めています。速やかに護岸工事に着手しできる限り早期の完成を目指していきます。

Q3　埋め立てにより貴重な自然を壊すことになる。多賀地区に伊豆山土石流災害の堆積土砂を埋め立てることにした理由を教えてほしい。

A3　堆積土砂の処理方法について、処理施設への処分と多賀地区への埋立と比較した結果、堆積土砂を埋立材料として有効利用することにより、地元から要望がある長浜海岸整備の進捗が図られること、処分に係る費用が少なくなること等から総合的に判断し、多賀地区の海岸を埋め立てることにしました。

Q4　大きな波がきても土砂が海に流出しないような対策をしてほしい。

A4　波の影響範囲は盛土の表面をコンクリートで保護します。また、高波に備えて鋼矢板前面に消波ブロックの設置も検討しています。現在、そのための準備を進めており、波の影響により土砂が流出しないように対策していきます。

Q5　背後の埋立地はどのようになるのか？

A5　埋立地の利用方法については、今後、熱海市と地域の方で話し合って決めていきます。

お問い合わせ先

【事業主体】
熱海市　観光建設部　まちづくり課　渋谷・根本　　TEL　0557-86-6421
【多賀地区埋立工事担当】
静岡県　熱海土木事務所　工事課　白井・武藤　　TEL　0557-82-9181

※本紙の内容や図は現時点での計画であり、今後、関係者との協議等により変更となる場合があります。

R4.3発行